

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(7/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
かがわ医療福祉総合特区(香川県)	3.7	4.5 進捗度 ・へき地薬局研修参加者数100% ・複合型サービス施設80% ・島しょ部における地域包括ケア病床の確保210%	2.7 規制の特例等 ・地域包括ケア入院管理料1の施設基準の緩和等 地域独自の取組 ・複合型福祉サービス充実事業	3.8	<p>・島しょ部、へき地における切実なニーズに応えるために構想された医療資源の乏しい地域における医療提供体制確保の為に先導的な取組みを実施してきており、これまでのICTを利用した遠隔診療と現地におけるナースの訪問看護を組み合わせた当該地域における取組が全国展開の端緒となった点でも、特区らしい事業として評価できる。今後、都市部も含む全国的なモデルの原型となるであろう。</p> <p>・小豆島中央病院の地域包括ケア病床数が拡充され、地域包括システムの構造的な充実が進んでいる。小豆島の島内で統合医療がどの程度完結しているか分かる指標があると良い。また、サービス内容やアウトカムに関する指標が現在ないため、地域にどのような影響があるかを把握することが必要ではないか。</p> <p>・介護報酬の加算については、さらに、地域独自の更なる工夫が必要と思われる。</p> <p>・医療人材の養成には時間がかかるので、専門職職員から一般職職員へのワークシフトなども検討することが必要ではないか。</p> <p>・順調に成果を上げている点を評価しつつも、島しょ部におけるコロナ感染予防や影響についての、本事業推進との関連も含め、十分な記述が必要と考える。</p> <p>・コロナ禍を契機とする社会の全般的なデジタル化、それに伴うデジタル技術の進展を効果的に取り入れて、先進的なモデルの構築を期待する。</p>